

海外生活 エッセー

ニューヨーク事務所

米ニュージャージー州における LRT 乗車体験記

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐 猪田 靖紀 (警視庁派遣)

→ はじめに

筆者はニュージャージー州 (以下 NJ 州) に住んでいますが、事務所があるマンハッタンまではニュージャージー・トランジット社 (以下 NJT 社) のバスを利用しています。NJT 社は NJ 州内の主要地点とニューヨーク市やフィラデルフィア市をバスや鉄道で結ぶ公営の公共交通機関です。今回、同社の LRT (次世代型路面電車) を利用して、NJ 州内の小旅行をしました。



LRT の外観

→ 駅員がない駅

旅の始まりはポート・インペリアル駅。同駅の近くにはマンハッタン行きフェリーの発着場があります。電車に乗るには、駅の出入口に設置してある券売機で切符を購入します。料金は大人 \$ 2.10 (≒ 260 円) で、距離に関係なく切符 1 枚でどこまでも行けるのは、われわれ日本人には余り馴染みのないシステムかも知れません。切符を購入した後、券売機の横にある機械に切符の先端を挿入し、入場時間のスタンプを押さなければなりません。全駅に共通して、改札もなく駅員もいないことから、「ただ乗りし放題?!」と疑いたくなりますが、路線図の注意書きには「車内や駅構内でランダムに検札をします。不正乗車には罰金が課せられます」と書かれてあり、人件費などのコストを極力排除し、あくまでも効率性を重視するアメリカ社会の一端を見た思いがしました。

→ メイド・イン・ジャパン

路面電車の各駅での滞在時間は短く、あっという間の発車です。発車の合図はシンプルな鐘の音で、都内の駅のさまざまな発車メロディと比べると、かなり淋しい印象を受けます。車内はこじんまりとした作りでしたが、平日の午前中ということもあって乗客は少なく、ゆったりと座って行くことができました。車内を見渡すと、車両後部の壁面上部に「KINKISHARYOU (近畿車輛)」と書かれたプレートを見つけました。日本製の車両が使用されていることは知っていましたが、その証拠を見つけることができ、「日本の技術がここでも頑張っているな」と少し誇らしげな気分になりました。



車内の様子

→ おわりに

今回の小旅行は、終着駅 (8 番街駅) までの片道 50 分程の短いものでしたが、駅員不在の駅やランダムな検札など、日本では考えられない大胆なシステムに驚きを感じる一方で、大都市では見ることのできない「アメリカのごく普通の町並み」を堪能することができました。駅前に駐車場と家しかない、ひたすら雑木林の風景が続く、ビル街を曲りくねりながら走るなど、日本のローカル線を思い起こさせる瞬間が多々あり、また一つこの国に親近感を抱いた次第です。